

氏名	田 辺 研 二
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 153 号
学位授与の日付	昭和41年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	髄液蛋白質に関する研究 第1編 髄液蛋白濾紙電気泳動—主に臨床との関連において 第2編 髄液蛋白カラムクロマトグラフィー
論文審査委員	教授 奥村 二吉 教授 水原 舜爾 教授 田中 早苗

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

濾紙電気泳動およびDEAEセファデックスA-50カラムクロマトグラフィーを応用して、正常および疾患髄液蛋白を分析した。泳動に際し、髄液濃縮には乾燥セファデックスG-25を用いた。臨床的に8疾患群に大別し興味ある所見としては Neuro-Behcet 症候群には軽度 γ -グロブリン上昇、多発性硬化症では β -グロブリン上昇、脳萎縮性疾患では経過年数の大きい例に著明な β グロブリン上昇等を認めた。

カラムクロマトグラフィーでは、食塩を漸増溶出させた。髄液蛋白ではプレアルブミン分画の存在が特異的であった。各分画の糖蛋白比を測定すると、脳萎縮性疾患では低食塩溶度溶出部分に、フェニルケトン尿症では高食塩濃度溶出部分にその増加を認めた。正常例では各分画での糖蛋白比は髄液ではおのおの血清の約2倍、フェニルケトン尿症では全般に高く、各分画における比は乱れた。

論文審査の結果の要旨

田辺研二提出の「髄液蛋白質に関する研究」なる学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

濾紙電気泳動およびDEAEセファデックスA-50カラムクロマトグラフィーを応用して、正常および疾患髄液蛋白を分析した。泳動に際し、髄液濃縮には乾燥セファデックスG-25を用いた。臨床的に8疾患群に大別し興味ある所見としては Neuro-Behcet 症候群には軽度 γ -グロブリン上昇、多発性硬化症では β -グロブリン上昇、脳萎縮性疾患では経過年数の大きい例に著明な β グロブリン上昇等を認めた。

カラムクロマトグラフィーでは、食塩を漸増溶出させた。髄液蛋白ではプレアルブミン分画の存在が特異的であった。各分画の糖蛋白比を測定すると、脳萎縮性疾患では低食塩溶度溶出部分に、フアニルケトン尿症では高食塩濃度溶出部分にその増加を認めた。正常例では各分画での糖蛋白比は髄液ではおのおの血清の約2倍、フアニルケトン尿症では全般に高く、各分画における比は乱れた。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。